

今年度、労働安全衛生委員会では

腰痛予防に取り組みます!!

4・5月で、腰痛に関する情報発信を行っていきます。

また、5月には腰痛予防効果の期待できる車椅子の

導入を予定しています。



皆さんは腰痛がある医療職の割合をご存知でしょうか？

以下は、現在または一年以内に腰痛を感じた人の職種別割合です。

職種	腰痛保有率
看護師	46%～80%超
介護職	57%～78%
リハビリ職 (PT・OT・ST)	50%～70%
全産業平均	10%～15%

医療職全体の平均を約60%とした場合、一般的な職種の人に比べて「約4倍」も腰痛を抱えやすいこととなります。今や、医療業界全体の問題となっているのです。

看護・介護

Nursing/Caregiving

人力による移乗・移動

患者をベッドから車椅子へ移す、抱え上げるなどの「垂直方向」への力仕事。

前屈み・中腰姿勢の継続

オムツ交換、シーツ作成、処置の介助など、腰を曲げた状態での静止作業。

リハビリ

Rehabilitation

不安定な状態での支持

歩行練習などで、ふらつく患者さまを長時間、側方や後方から支え続ける負担。自信の身体を道具として使うことによる無理な負荷。

治療台上での捻転動作

治療台上でストレッチや可動域訓練を行う際の不良姿勢。

これだけでなく、医療職共通で自分よりも重たい患者さまを安全に

移動・移乗させなければいけないことも腰部へのストレスを増大させる大きな要素です。

こうした過酷な状況が連続的に発生する環境で働いているからこそ、腰痛予防に取り組む価値があります。

今後、抱えない介助方法や有効な機器の紹介などを行っていく予定にしています。

病院として腰痛予防に取り組み、職員の皆さまが安全かつ楽に働ける環境を目指しています。